

# 新聞記事におけるエスニックタウン

—大阪・生野コリアタウンの事例から—

How do Newspaper Articles Represent Ethnic Towns:  
Case Study of Korea Town in Ikuno-ku, Osaka City

八木 寛之\*  
Hiroyuki YAGI

## Abstract

The purpose of this study is to analyze newspaper articles about ethnic towns in Japanese society. As a representative example of an ethnic town, this study uses "Ikuno Korea Town" in Ikuno Ward, Osaka City, as a case study. The survey covered articles in the Asahi Shimbun and the Yomiuri Shimbun. The analysis revealed that the number of newspaper articles on Ikuno Korea Town increased in the 2000s. In this paper, through text-mining analysis, we examined the pattern of the words associated with Ikuno Korea Town in the newspapers. As a result, words that evoke the image of Ikuno Korea Town as a town of Koreans were extracted from many articles on Ikuno Korea Town. Specifically, they were words related to "multicultural coexistence" such as Koreans, history of Korea Town, ethnic festivals, and ethnic education. In addition, words related to tourism, such as shopping streets, food culture, and the Korean boom, were also found. Noteworthy in the analysis of this paper is Ikuno Korea Town, which appears in articles on political situations and sporting events. Among them, we found a pattern of newspaper articles in which "Korean residents in Japan are asked to comment on the political situation in South and North Korea.

キーワード: エスニックタウン, 大阪・生野コリアタウン, 新聞記事

## I はじめに

大都市において, ある特定の (または複数の) エスニック集団は, 一定の地域空間に集住する傾向がみられる。このようなエスニック集団の集住地域は, 「エスニックタウン」と呼ばれる。エスニックタウンに関する研究は, 社会学や文化人類学, 地理学, 建築学などの幅広い分野で蓄積されてきた。本稿の目的は, 日本社会におけるエスニックタウンのイメージについて, 新聞記事の分析をとおして検討することである。そこで本稿では, エスニックタウンの代表的な例として, 大阪市生野区にある「生野コリアタウン (コリアンタウン)」を取りあげる。

---

\*関西国際大学現代社会学部

大阪市生野区は、朝鮮半島および韓国・済州島出身者と、これらの場所にルーツを持つ「在日コリアン（在日韓国・朝鮮人またはそこにルーツをもつ人）」が多く集住する地域として知られる<sup>註1</sup>。「生野コリアタウン」と称される地域の範囲は、生野区のなかでも在日コリアンがとくに集住する、旧「猪飼野（いかいの）」地域を指す場合が多い。たとえば、地域内にある御幸通商店街は、1980年代ごろから商店街の通称として「(大阪) 生野コリアタウン」という名称を用いてきた<sup>註2</sup>。

生野コリアタウンは、在日コリアン研究のフィールドとして、社会学や地理学、さらには建築学など幅広い研究分野から関心が寄せられてきた。このなかで、社会学における都市エスニシティ研究では、在日コリアンと日本人との民族関係（エスニック関係）の解明を試みる研究が、生野コリアタウンをフィールドとしておこなわれてきた（谷編 2002<sup>1)</sup>、二階堂 2007<sup>2)</sup>）。こうした在日コリアン研究や都市エスニシティ研究からは、「多文化共生の場としての生野コリアタウン」というイメージが浮上する。その一方で、近年のいわゆる「韓流ブーム」以降、生野コリアタウン内の商店街を中心として、ニューカマーによる「韓流ショップ」などの新規出店、そして日本人（観光）客の増加などが報告されている（八木・谷 2014<sup>3)</sup>、矢野・湯山・全 2020<sup>4)</sup>）。こうした状況からは、「観光地化する生野コリアタウン」というイメージが浮上する。

そこで本稿では、上記のような生野コリアタウンのイメージをふまえたうえで、おもに 1990年代以降に掲載された生野コリアタウンに関する新聞記事がどのような内容であるのか検討する。生野コリアタウンの形成過程を論じたもので、新聞記事の内容分析を試みた研究は管見の限りみられない。また、都市エスニシティ研究として、日本社会におけるエスニックタウンのイメージについて考察することには意義があると考えられる。

## II 方法

本稿の分析対象は、朝日新聞と読売新聞において生野コリアタウンについて記述されていたり、関連がみられた記事である。具体的には、以下の方法で対象となる記事を索出した。

まず、新聞記事の検索にあたっては、関西国際大学メディアライブラリーの利用者 ID（筆者所有）によって閲覧可能な新聞記事データベース（朝日新聞「聞蔵Ⅱ」、読売新聞「ヨミダス歴史館」）を利用した。期間は、朝日新聞が 1985 年から 2022 年 6 月 17 日分まで、読売新聞が 1987 年から同年月日日までである。検索対象は、朝刊・夕刊の両方、そして全国版の記事だけでなく大阪など地方版のみに掲載された記事も含まれている。検索の際に用いる語は「生野 コリアタウン」と「生野 コリアンタウン」とし、その合計の記事を分析対象の候補とした。そこから、全国版と地方版とで本文がほぼ一致している記事や、生野コリアタウンとは関係がない記事については、筆者の判断により分析対象から除外した。その結果索出された新聞記事の数は、朝日新聞が 227 件、読売新聞が 180 件であった。

以上の方法により索出された記事本文（全文）については、KH coder (ver.3) を用いたテキストマイニングをおこなった。なお、テキストをデータ化する際には、生野コリアタウンや在日コリアンにまつわる人名や固有名詞・地名などを「強制抽出語」として登録した。なお、次節以降では適宜、新聞記事の本文を引用しているが、個人名や当時の年齢が記載されているものは仮名とし、また、年齢については削除している。本稿で仮名としている個人名は、いずれも在日コリアンと推測される名前であった。

### Ⅲ 生野コリアタウンに関する新聞記事

#### 1. 新聞記事数の推移

まずは、各新聞の総記事数の推移と、2000年代初めごろまでの記事について確認する。それぞれの記事数を掲載年ごとに集計したものが、図1（朝日新聞）と図2（読売新聞）である。

今回、朝日新聞は1985年以降、読売新聞は1987年以降の記事を検索対象としたが、いずれも1980年代の記事は検出されなかった。今回の検索範囲のなかで最も古い記事は、1990年5月9日の朝日新聞で、「コリアタウン（イウサラム 猪飼野の街から）」という連載記事の9回目に当たる記事であった。この記事では、1980年代に生野区内で浮上した「コリアタウン構想」に関する話題が取り上げられている。これは、当時の韓国大阪青年会議所などが中心となって、地元の御幸通商店街を含む地域を活性化する目的として構想されたものである。生野区の旧猪飼野地域が「コリアタウン」として新聞紙上で取り上げられるようになったのは、この構想がひとつのきっかけであったと考えられる。

しかしながら、朝日新聞と読売新聞いずれも1990年代までは、生野コリアタウンに関する記事は総じて少なかったといえるだろう。上述のコリアタウン構想が具体化しなかったことや<sup>3</sup>、1990年代までは、コリアタウンという呼称自体が、日本社会においてそれほど浸透していなかった可能性が考えられる。これに対し、同じ時期（1985～1999年）に地域の旧名である「猪飼野」が登場する記事は、朝日新聞で計68件もみられた。1990年代は、同地域からイメージされる名称が、猪飼野から生野コリアタウンへと変化していく過渡期であった可能性がある。

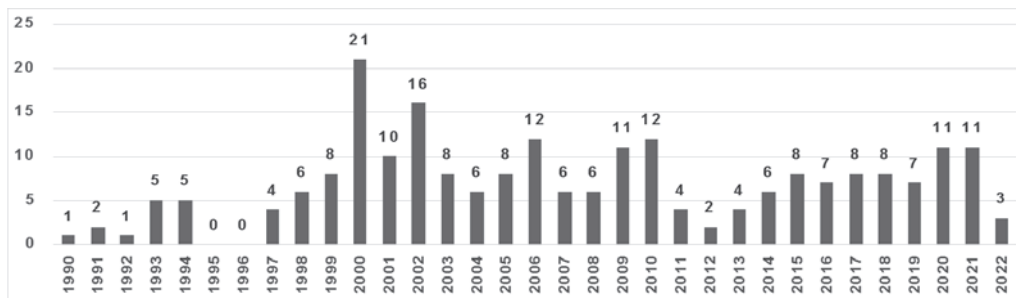
とはいえ、朝日新聞では、1990年代にほぼ毎年何らかのかたちで生野コリアタウン（コリアンタウン）に関する記事がみられた（新「コリアンタウン」にきたれ 大阪・生野区の御幸通商店街 1994年1月22日／金日成主席死去で喪に服すコリアタウン 行事などは中止 1994年7月10日／猪飼野の息吹伝える2冊出版 大阪に住む韓国・朝鮮人の昔と今 1998年11月17日／南北統一願い、催し多彩 生野区で7日、ワンコリアフェス 1999年11月5日ほか）。これに対し読売新聞では、1990年代の生野コリアタウンに関連する記事は、1991年と1992年の計3件しかみられなかった（大阪のアジア・鶴橋探訪 焼き肉にほぼしる本場の味とパワー 1991年8月31日／世界卓球初優勝を祝い 大阪・生野区の在日韓国・朝鮮人が統一パレード 1991年5月2日／中韓国交樹立へソウル市民歓迎 「過去は過去」未来に期待 半島統一近付いた 1992年8月22日）。このうち1992年の記事は、一見すると生野コリアタウンとは関係がないようにみえるが、本文は以下のとおりである（一部抜粋）。

約十八万人の在日韓国・朝鮮の人たちが住む大阪。（中略）JR 鶴橋駅近くのコリアタウンの商店街では、年配の店主らが朝早くから店先で「韓中国交樹立へ」を報じる新聞を感慨深げに見入ったが、薬局を営むN.K.さんは「韓中国交樹立よりも朝鮮半島の統一が先だ。中国はこれまで関係のあった北朝鮮の立場を考えうえて慎重に対応してほしかった」と語気を強めた。

朝鮮半島をめぐる政治情勢を伝える記事のなかで、生野コリアタウンの在日コリアンが、そのニュースについてコメントをする。後述するように、こうした記事はその後もたびたびみられた。

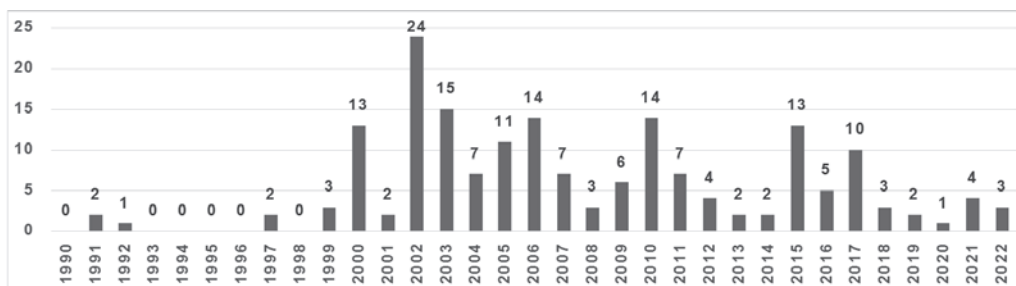
2000年代に入ると、朝日新聞と読売新聞のいずれも生野コリアタウンに関する記事数が増加している。朝日新聞では、2000年代には平均して年間10件程度、2010年代以降では年平均7件程度の記事が掲載されている。読売新聞では、2000年代で年平均10件程度、2010年代以降で年平均5件程度となっているが、朝日新聞よりも年間の件数にばらつきがみられる。また、連載記事が掲載されると、

検索件数が多くなる傾向がある。



2022年は6月17日分まで

図1 「生野 コリアタウン」「生野 コリアンタウン」での検索結果（朝日新聞）



2022年は6月17日分まで

図2 「生野 コリアタウン」「生野 コリアンタウン」での検索結果（読売新聞）

## 2. 「2000年・南北首脳会談」時の朝日新聞記事

図1, 図2をみてもわかるとおり, 2000年代に入り, 朝日新聞と読売新聞ともに生野コリアタウンに関する記事数が増加している。まず, 朝日新聞では2000年に記事数が21件と突出している。これは, 2022年6月までの集計でもっとも多い数である。なぜ2000年に記事が急増したのか。この年の6月, 韓国の金大中大統領と北朝鮮の金正日総書記による南北首脳会談が, 1948年の北朝鮮の分断以来はじめて実現した。2000年の朝日新聞の記事21件のうち10件が, 南北首脳会談に関連する記事であった。それでは会談を伝える記事のなかで, 生野コリアタウンはどのようなかたちであられたのだろうか。以下は, 南北首脳会談が決定したことを伝える新聞記事の抜粋である。

「ワンコリアへ弾む春 6月, 北朝鮮首脳初会談」2000年4月10日 大阪夕刊

多くの在日韓国・朝鮮人が住む大阪市生野区の「コリアタウン」では, 首脳会談開催決定の知らせに歓迎の声が広がった。

在日の立場から南北統一を呼びかけるイベント「ワンコリアフェスティバル」実行委員長のK.C.さんは「大歓迎です。今秋のワンコリアフェスティバルの前にも, 南北統一を呼びかけるイベントを開きたい」と話す。

喫茶店を経営する G.H.さんは、近所で青果店を営む父親の H.H.さんの元へニュースを伝えに行った。「胸が躍る思いです。サッカーの世界カップにも一つのチームで出場して欲しい」と語った。

このように、南北首脳会談関連の記事のなかでは、会談の実現に対する在日コリアンの感想が掲載されている。これは、先述した 1992 年の読売新聞の記事にみられた特徴、すなわち、「韓国や北朝鮮をめぐる政治・社会情勢を伝えるなかで、生野コリアタウンの在日コリアンによるコメントが記事中に掲載される」という構成と類似している。

### 3. 「2002 年・サッカーワールドカップ日韓共催」時の読売新聞記事

読売新聞の記事数も 2000 年代以降に増加しているが、とくに 2002 年の件数が 24 件と突出して多い。南北首脳会談がおこなわれた 2000 年の件数も 13 件と、それまでの推移からみると突出しているが、2002 年はそれをも大幅に上回っており、2022 年 6 月までの集計でもっとも多い件数である。2002 年は、サッカーワールドカップが日本と韓国の共催により開催された年である。2002 年の記事 24 件のうち、ワールドカップに関連する記事は 11 件にもおよぶ。

「コリアタウンも『マンセー』 サッカーW杯、韓国勝利に喜び爆発」2002 年 6 月 19 日 大阪朝刊

「アゲイン（再び）、1966」——韓国サポーターらの願いが現実になった。一九六六年のW杯イングランド大会で北朝鮮がイタリアを破り、アジアの出場国として唯一成し遂げたベスト 8 入り。同じ強豪を下して再現した快挙に、韓国全土が酔いしれた。

多くの在日韓国・朝鮮人が住む大阪市生野区の通称「コリアタウン」では、住民ら約五百人が、公園に設置された大型スクリーンのテレビ中継を観戦し、韓国代表の劇的な勝利に喜びを爆発させた。（中略）

焼き肉店経営、Y.P.さんは「日本人も一緒に韓国を応援してくれた姿に感激した。先に負けてしまった日本の分も韓国に勝ち進んでほしい」と話していた。

記事にもあるとおり、生野コリアタウンの商店街ではワールドカップの期間、韓国戦のパブリックビューイングイベントを開催した。以上のように、生野コリアタウンに関する新聞記事には、同地域での出来事を伝える記事にくわえて、政治情勢や文化・スポーツイベントに関連づけられる記事が多くみられた。とくに、2000 年の首脳会談については朝日新聞が多く取り上げ、2002 年のサッカーワールドカップに関しては読売新聞の記事が多くみられた。

## IV. テキストマイニングによるクラスター分析

ここからは、新聞紙上における生野コリアタウンのイメージについて、KH coder を用いたクラスター分析をとおして検討していきたい。総抽出語数は、朝日新聞が 164,945（うち分析に使用された語は 66,158）、読売新聞が 111,887（うち分析に使用された語は 44,973）であった。

### 1. 新聞記事本文の頻出語

まずは、朝日新聞と読売新聞の記事本文から抽出された特徴的な語を確認する。表 1 と表 2 は、そ

れぞれ朝日新聞と読売新聞の新聞記事本文からの抽出語を、出現回数が多いものから順にならべたものである。朝日新聞でもっとも出現回数が多い語は「在日」で、「韓国」、「大阪」、「日本」、「生野」、「コリアタウン」と続く。また、読売新聞でもっとも出現回数が多い語は「韓国」で、「在日」、「大阪」、「生野」そして「北朝鮮」、「コリアタウン」、「日本」と続く。なお、「韓流」という語は、朝日新聞で58、読売新聞で34抽出された。「韓流」の初出は、朝日新聞が2005年3月28日、読売新聞が2004年10月4日の記事であった。

朝日新聞と読売新聞を比較すると、読売新聞の抽出語に、「北朝鮮」、「拉致」、「ミサイル」、「総連」など、北朝鮮情勢に関する単語が並んでおり、朝日新聞との違いが目立つ（詳細は後述）。一方で、朝日新聞にみられる特徴的な語として、「考える」という動詞がある。たとえば、「朝鮮半島の人たちが、自分たちの国のことをよく考えるきっかけになるんじゃないでしょうか（1994年7月9日）」や、「今のコリアタウンは観光地としてにぎわう半面、ヘイトスピーチという悲しいできごともある。すべての人が幸せに暮らせる町づくりを考えるきっかけにしてほしい（2017年11月8日）」といった記事のコメント中に「考える」という語が登場している（下線は筆者による）。日本社会における在日コリアンをめぐる諸問題や、生野コリアタウンのまちづくりに対する姿勢などが、その当事者でもある在日コリアンらによって語られる場面で「考える」という語があらわれているようにみえる。

それでは、生野コリアタウンに関する記事に特徴的にみられる語が、どのような文脈で、そしてどのようなイメージと結びついて見いだされるのか。次節では、クラスター分析をつうじて検討したい。

表1 朝日新聞の頻出語（上位50）

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	在日	856	26	キムチ	145
2	韓国	847	27	子ども	142
3	大阪	763	27	多い	142
4	日本	579	29	済州島	141
5	生野	522	30	コリアン	140
6	コリアタウン	397	30	朝鮮半島	140
7	朝鮮	318	32	歴史	139
8	人	267	33	学校	138
9	月	246	34	問題	136
9	朝鮮人	246	35	交流	133
11	北朝鮮	244	36	関係	132
12	商店街	236	36	思う	132
13	民族	234	38	知る	128
14	写真	223	39	社会	122
15	話す	222	40	日韓	118
16	南北	190	41	街	116
17	文化	183	42	見る	114
18	店	180	42	午後	114
19	前	167	44	住む	111
20	統一	166	45	外国	110
21	金	159	45	大統領	110
22	説明	155	47	会談	107
23	猪飼野	150	47	総連	107
24	日本人	148	49	李	104
25	開く	147	50	考える	101
			50	女性	101

表2 読売新聞の頻出語（上位50）

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	韓国	543	26	歴史	96
2	在日	487	27	キムチ	95
3	大阪	441	28	選手	93
4	生野	317	28	日本人	93
5	北朝鮮	283	30	コリアン	92
6	コリアタウン	280	31	街	88
6	日本	280	31	金	88
8	朝鮮	193	33	思う	87
9	写真	182	33	統一	87
10	話す	181	35	語る	86
11	朝鮮人	146	36	日韓	83
11	拉致	146	37	被害	82
13	関係	138	38	期待	80
14	文化	133	38	女性	80
15	人	130	40	家族	79
16	声	121	40	午前	79
17	韓国人	119	42	会談	78
18	問題	114	43	午後	77
19	商店街	113	43	知る	77
20	開く	112	43	発射	77
21	南北	111	46	本部	75
22	前	105	47	商店	74
23	民族	103	47	代表	74
24	総連	102	49	見る	71
25	ミサイル	97	49	参加	71

## 2. 記事本文のクラスター分析（朝日新聞）

ここでは、それぞれの新聞社の記事の特徴について検討するために、新聞記事をクラスターに分けて

分析する。分析対象は、朝日新聞、読売新聞それぞれの記事本文の全文とした。KH coder を用いて以下の分析をおこなった。まず、クラスター分析にあたっては、方法を「Ward 法」、距離を「Euclid」、そして標準化を「文書ごと」に設定した。クラスター分析の結果から併合水準（非類似度）を確認し、併合水準が下げ止まった段階を、分類に適したクラスター数と判断した（朝日新聞：クラスター併合の段階 218, 併合水準 23.587；読売新聞：クラスター併合の段階 170, 併合水準 20.433）。そして、朝日新聞はクラスター数 9, 読売新聞はクラスター数 10 としたうえで再度クラスター分析をおこなった。そのうえで、Jaccard 係数によるクラスターごとの関連語を析出し、各クラスターの特徴を検討した<sup>注4</sup>。

本節では、朝日新聞の記事についてみていく。表 3 は、朝日新聞の 9 つのクラスターと、各クラスターの関連語を示したものである。語の右側の数値は Jaccard 係数で、数値は 0 から 1 のあいだをとり、1 に近いほど共通に登場した文書が多いことを示す。

まず（クラスター1）は、「選手」、「入場」、「試合」、「スポーツ」などが上位の関連語を占めており、少数であるが 8 つの記事で構成されている。具体的には、ボクシング、五輪、サッカーワールドカップ、そして野球の関西独立リーグなど、すべてスポーツ関連の記事であった。たとえば、生野区内のボクシングジムに所属していた在日コリアン 3 世のプロボクサー・徳山昌守氏に関する記事が 2 件含まれている。生野コリアタウンにゆかりのあるスポーツ選手や、韓国・北朝鮮の選手を応援したり讚えたりする在日コリアンの様子が記事中では伝えられている。

表 3 記事本文のクラスターと関連語（朝日新聞）右の数値は Jaccard 係数

クラスター1		クラスター2		クラスター3		クラスター4		クラスター5	
選手	0.444	会談	0.447	ミサイル	0.417	政権	0.382	智鉉	0.625
入場	0.400	首脳	0.410	確認	0.389	大統領	0.333	白黒	0.300
試合	0.375	合	0.371	拉致	0.364	解放	0.267	長女	0.273
スポーツ	0.333	南北朝鮮	0.357	国民	0.333	金時鐘	0.241	猪飼野	0.258
行進	0.333	総連	0.342	解決	0.333	氏	0.240	展示	0.250
王者	0.333	統一	0.322	対応	0.333	植民	0.229	桃谷	0.250
開会	0.333	朝鮮民主主義人民共和国	0.313	核	0.333	事件	0.229	カット	0.250
戦う	0.308	本	0.296	懸念	0.313	詩人	0.226	ソウ	0.250
先導	0.300	本部	0.290	見方	0.313	運動	0.222	チョ	0.250
昌	0.294	黄	0.250	十分	0.313	密航	0.222	チョ	0.250
クラスター6		クラスター7		クラスター8		クラスター9			
生野	0.308	小学校	0.333	味	0.517	韓国人	0.310		
商店街	0.237	市立	0.281	肉	0.391	韓国	0.275		
御幸通	0.229	児童	0.270	料理	0.333	話す	0.259		
街	0.226	外国	0.259	食べる	0.333	日韓	0.253		
コリアタウン	0.218	御幸森	0.250	開店	0.333	国	0.247		
桃谷	0.205	学級	0.233	スープ	0.333	感じる	0.244		
並ぶ	0.195	学校	0.233	メニュー	0.296	説明	0.244		
地元	0.184	教える	0.231	焼く	0.292	写真	0.243		
問い合わせ	0.175	子ども	0.230	おいしい	0.286	日本人	0.239		
多い	0.169	小	0.207	タレ	0.286	思う	0.237		

（クラスター2）は、「会談」、「首脳」、「南北朝鮮」、「総連」、「統一」などの関連語があり、23 の記事により構成されている。とくに 2000 年の記事のうち 11 件が、このクラスターに分類されるなど、掲載時期が偏っていることが特徴である。先述のとおり、2000 年の朝日新聞には南北首脳会談に関する記事が多く掲載されており、そのことが反映された記事群であるといえる。よってこのクラスターでは、韓国と北朝鮮の融和や統一への期待が、生野コリアタウンのイメージと結びついていると考え

られる。

(クラスター3)は、「ミサイル」、「拉致」、「国民」、「懸念」などの関連語があり、合計で12の記事により構成されている。クラスター3の記事はすべて2002年以降に登場している。クラスター3の記事の多くは、2010年代以降の北朝鮮によるミサイルの発射や、拉致問題に関連する記事である。関連語から連想されるのは、「日本国民が北朝鮮の行動を懸念する」といった「声」であるが、それに並列するかたちで、生野コリアタウンの在日コリアンの「声」が同じ記事内に掲載されている。

(クラスター4)は、「政権」、「大統領」、「解放」、「植民」、「事件」などの関連語がみられ、24の記事で構成されている。これらは、生野コリアタウン(旧猪飼野地域)にまつわる在日コリアンの歴史や政治的問題に関する記事で構成されている。ただし、「大統領」や「政権」といった語にみられるように、韓国での新政権発足時などの政治情勢に関する記事のなかで、生野の在日コリアンが言及されているものもみられる。つまり、これらのクラスターは、生野での在日コリアンの歴史に関連する文章が中心であるが、それらの文章が、韓国の政治情勢と結びつけられているという特徴がみられる。なお、金時鐘(キム シジョン)氏は、1948年に済州島で起きた「四・三事件」をきっかけに生野の旧猪飼野に移住した在日コリアンの詩人である。

(クラスター5)は、「智鉉」、「猪飼野」、「展示」などの関連語があり、記事数は少ないが8つで構成されている。クラスター4と同様、生野コリアタウンにおける在日コリアンの歴史に関する記事で占められている。ただし、「猪飼野」が関連語にあることは、猪飼野にゆかりがある在日コリアンの文化人に関する記事で構成されていることを示している。なお、猪飼野の次に高い係数に「日本書紀」があるのは、猪飼野という地名の由来が日本書紀に登場する「猪甘津(いかいつ)」と呼ばれる日本最古の橋であることが、記事中で説明されることが多いためであると考えられる。

(クラスター6)は、「生野」、「商店街」、「御幸通」、「コリアタウン」などの関連語が上位を占め、2番目に多い48の記事で構成されている。生野コリアタウンでのイベントや、御幸通商店街に関連する記事である。商店街内で長らく韓国食材などの物産店を営み、現在は商店街外でも事業を幅広く展開している徳山物産の記事(コリアタウン、繁栄への歩みは 韓国食材で成功、在日3世が自伝 2020年3月3日)や、在日コリアンの民族教育や在日外国人問題に携わり生野コリアタウンの近くに事務所を置くNPO法人「コリアNGOセンター」、そして「韓流ブーム」に関する記述がみられる。

(クラスター7)は、「小学校」、「児童」、「外国」、「御幸森」、「教える」といった関連語があり、27の記事から構成されている。クラスター6に類似しているが、在日コリアンの歴史や文化について学ぶ記事や、民族教育に関する記述によって構成されたクラスターであるといえる。とくに2021年には、御幸通商店街が校区内にある大阪市立御幸森小学校が閉校されることにともない、それに関する記事が立て続けに掲載された(ルーツの誇り「消えない」多文化の学舎、1世紀で幕 生野区・御幸森小 2021年3月10日/韓流・嫌韓...在日の子らの物語 生野・コリアタウン、小学校の閉校追う MBS 2021年5月29日/猪飼野に、まちの居場所「Yosuga」地元出身の元小学校教師が開設し3年 2021年6月3日など)。このクラスターの記事からは、多文化共生の場としての生野コリアタウンのイメージがとりわけ強く印象づけられるだろう。

(クラスター8)は、「味」、「肉」、「料理」、「食べる」といった関連語が上位を占め、20の記事で構成されている。在日コリアンの食に関する記述で構成されており、見出しでも生野コリアタウンの飲食店の紹介や、食に関する文言が中心であり、「食文化」にまつわるクラスターであるといえるだろう。

最後の(クラスター9)は、59ともっとも多い記事が含まれており、関連語には「韓国人」、「話す」、



「日韓」,「日本人」などがみられる。クラスター7と同様、多文化共生に関する記事や、日韓交流に関する記事で構成されているが、商店街内の店の紹介や、2000年代半ばに商店街内ではじめてK-POPの専門店を開いた在日コリアンに関する記事などもみられる。その一方で、在日コリアンや在日社会の問題について考える趣旨の記事も1990年代からみられ、とくに近年では「ヘイトスピーチ(民族憎悪)」に関する記事もみられる。そしてこのクラスターの関連語には、「話す」、「感じる」、「思う」といった動詞が上位にある点が注目される。生野コリアタウンのさまざまなトピックが集まるクラスターであるが、とりわけ在日コリアンの「思い」や「考え」が綴られている記事の集まりであると考えられる。

### 3. 記事本文のクラスター分析(読売新聞)

つづいて表4は、読売新聞の10のクラスターと、各クラスターの関連語を示したものである。

(クラスター1)は、「発射」、「ミサイル」、「海上保安庁」、そして「困惑」などの関連語が上位にあり、合計で10の記事から構成されている。北朝鮮によるミサイル発射を伝える文章と、それにたいする「反応」が記事内に記されていることが、このクラスターの記事の特徴である。この「反応」のなかに、生野コリアタウンの在日コリアンによるコメントが掲載されている。初出は2006年の北朝鮮によるミサイル発射に関する記事で、それ以前の記事は含まれていない。

(クラスター2)は、「拉致」、「総連」、「解決」などの関連語があり、合計で20の記事から構成されている。クラスター1のミサイル発射関連の記事に加え、拉致問題に関する記事で構成されている。これはクラスター1でみられた、北朝鮮情勢を伝えるニュースとそれにたいする在日コリアンのコメントに加えて、拉致問題の関係者(拉致被害者家族ら)のコメントが同じ記事内に掲載されているためであると考えられる。

表4 記事本文のクラスターと関連語(読売新聞)右の数値はJaccard係数

クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5
発射 0.769	拉致 0.436	選手 0.640	猪飼野 0.750	参加 0.268
ミサイル 0.667	合 0.406	リーグ 0.500	日本書紀 0.455	コリアン 0.257
海上保安庁 0.546	総連 0.400	チーム 0.440	津 0.400	文化 0.257
管理 0.539	解決 0.382	試合 0.407	猪 0.333	開く 0.244
弾道 0.500	本部 0.371	仲間 0.350	町名 0.333	センター 0.225
警報 0.500	本 0.361	スタンド 0.333	甘い 0.308	企画 0.217
遅れる 0.500	訴える 0.355	プレー 0.333	作家 0.308	中心 0.214
困惑 0.455	政府 0.353	声援 0.320	消える 0.308	共生 0.195
市町村 0.455	交渉 0.346	応援 0.313	大正 0.300	子ども 0.195
また 0.429	朝 0.345	参入 0.294	平野川 0.300	委員 0.194
クラスター6	クラスター7	クラスター8	クラスター9	クラスター10
街 0.259	日韓 0.309	御幸通 0.442	朴槿恵 0.800	会談 0.526
料理 0.250	ソウル 0.286	パレード 0.348	退陣 0.600	首脳 0.500
研究 0.242	日本人 0.275	商店街 0.266	デモ 0.500	全体 0.500
多い 0.230	今 0.258	中央 0.234	投票 0.429	握手 0.455
楽しむ 0.229	韓国 0.245	楽器 0.222	クリーン 0.400	非核 0.364
受け継ぐ 0.222	来日 0.244	衣装 0.200	啓 0.400	朝 0.318
観光 0.220	韓国人 0.228	盛り上げる 0.200	憲法 0.400	首相 0.313
作る 0.200	交流 0.220	民族 0.197	呼応 0.400	文 0.304
始める 0.200	両国 0.216	商店 0.192	裁判所 0.400	提起 0.300
外国 0.200	焼き肉 0.214	鳴らす 0.182	参政 0.400	分断 0.286

(クラスター3)は、「選手」、「リーグ」、「チーム」、「試合」、「仲間」といった関連語が上位を占め、合計で16の記事で構成されている。これらの語が示すとおりスポーツ関連の記事で占められており、在日コリアンの選手や関係する人物に加えて、五輪や世界大会などでの韓国・北朝鮮の活躍が、生野コリアタウンと結びつけられる傾向がある。

(クラスター4)は、「猪飼野」、「日本書紀」、「町名」、「消える」といった関連語がみられ、合計で9つの記事で構成されている。猪飼野が関連語の最上位にあるとおり、生野コリアタウンの歴史に関する記事(「猪飼野」の地名の由来)や、地元ゆかりの在日コリアンの文化人や芸術家の活動を紹介する記事がみられる。このクラスターは、朝日新聞のクラスター4と似た性格を持つ記事群であると考えられる。

(クラスター5)は、「参加」、「コリアン」、「文化」、「開く」といった関連語が上位にあり、合計で30の記事で構成されている。記事の見出しからは一貫した特徴や傾向がみえにくい、在日コリアンの歴史を学んだり体験したりする企画展やイベントのほか、記事内では多文化共生に関連する語がみられる。総じて、生野コリアタウンにおける多文化共生に関わるイベントや活動に関するクラスターであるといえるだろう。このクラスターがもっとも多く抽出されたのは、2003年の記事である。これまで生野コリアタウン周辺では、「生野民族文化祭」、「ワンコリアフェスティバル」、「生野コリアタウン祭り」といった祭りやイベントが開催されてきた。これらを紹介する新聞記事もほぼ毎年みられ、「在日コリアンの街」そして「多文化共生の街」としての生野コリアタウンのイメージ形成に寄与してきたと考えられる(コリアタウンの魅力満載 あす、生野区で「共生まつり」2003年10月4日/異文化との出会い コリアタウンで2003年10月4日/南北統一願う若者集まれ 26日にワンコリアフェス 初の前夜祭を企画 2003年10月7日)。

(クラスター6)は、「街」、「料理」、「研究」、「楽しむ」、「受け継ぐ」、「観光」といった関連語が上位にみられ、合計で25の記事によって構成されている。クラスター5と同様に、生野コリアタウンでのイベントなどの紹介記事が主であるが、こちらのクラスターでは在日コリアンの食文化や、生野コリアタウン観光、そして商店街などの地域活性化に関連する文章が中心である。

(クラスター7)は、「日韓」、「ソウル」、「日本人」、「交流」、「両国」といった関連語がみられ、34の記事で構成されている。このクラスターでは、上位の関連語からもいえるように、日韓の交流に焦点をあてた記事が目立っている。そのなかには在日コリアンの歴史に関する記事や、クラスター5・6と同様に地域でのイベントや食に関する記事も含まれている。興味深い点として、2002年のサッカーワールドカップ日韓共催に関する記事が、このクラスターに7件含まれていることが挙げられる。つまり、朝日新聞のクラスター分析でも示唆されたように、これらの記事では生野コリアタウンが、スポーツイベントをとおした日韓交流や日韓友好を象徴する場所として記述されているのである。

(クラスター8)は、「御幸通」、「パレード」、「商店街」、「楽器」、「衣装」といった関連語が上位を占めており、合計で21の記事で構成されている。このクラスターのなかには、「ワンコリアフェスティバル」、商店街でのイベントに関する記事が含まれている。ここからは、祭りやイベント、体験学習の場などにおいて、(民族)「楽器」を「鳴らす」ことで「盛り上げる」イメージが浮かび上がる。また、2002年のサッカーワールドカップに関する記事も2本含まれている(生野の「コリアタウン」熱く 日韓W杯盛り上げ 屋台出店、祭りにぎわう 2002年6月3日/W杯、きょう日韓中がそろい踏み 東アジア勢の勝利に期待 2002年6月4日)。

(クラスター9)は、もっとも少ない5つの記事によって構成されているが、いずれも韓国の大統領

に関するものである。具体的には、韓国大統領選挙に関する記事が 2007, 2012, 2016 年に計 4 件、そしてもう 1 件は 2017 年、朴槿恵大統領（当時）の罷免を伝える記事であった。ここでもクラスター1や2と同様に、生野コリアタウンの在日コリアンを中心としたコメントが掲載されている。

最後の（クラスター10）は、「会談」、「首脳」、「握手」、「非核」といった関連語がみられ、合計で 10 の記事によって構成されている。2000 年の南北首脳会談に加え、2002 年の日朝首脳会談や、それ以降の南北首脳会談および米朝首脳会談の記事であり、朝鮮半島の政治・社会情勢と生野コリアタウンが記事のなかで結びつけられている。

## V おわりに：新聞紙上における生野コリアタウンとその掲載パターン

本稿では、新聞紙上における生野コリアタウンについて分析してきた。まず、「生野コリアタウン」および「生野コリアンタウン」が記載されている新聞記事の件数は、朝日新聞と読売新聞ともに 2000 年代になって増加したことがわかった。2000 年代に記事が増加した契機として、朝日新聞では 2000 年の南北首脳会談、読売新聞では 2002 年のサッカーワールドカップ日韓共催が考えられる。

つぎに、テキストマイニングによる分析をとおして、新聞紙上において生野コリアタウンがどのような語に関連づけられて記載されているのか、そのパターンについて検討した。その結果、生野コリアタウンに関する多くの記事から、本稿の冒頭で示したような在日コリアンの街としてのイメージを想起させる語が抽出された。具体的には、在日コリアンの歴史、生野コリアタウン（猪飼野）の歴史、民族祭り、民族教育といった「多文化共生」に関する語群である。また、商店街や食文化、そして韓流ブームといった観光化に関する語群もみられた。このなかでとくに朝日新聞では、地元小学校の閉校といった民族教育をめぐる変化や（クラスター7）、ヘイトスピーチに関する記事など（クラスター9）、日本国内での多文化共生をめぐる新たな問題を取り上げる記事がみられた。一方の読売新聞では（クラスター6, 7, 8）にみられるように、生野コリアタウンでのイベントや行事に関する記事のなかで、多文化共生や観光について記載される傾向があるように見受けられる。ただし、両社の記事の相違について本稿で結論を出すことは難しく、より詳細な分析が必要である。

そして、今回の分析結果から注目されるのは、政治情勢とスポーツイベント関連の語群と結びついた生野コリアタウンに関する記事である。とくに前者の記事の多くでは、「朝鮮半島における政治情勢にたいするコメントを求められる在日コリアン」というパターンがみられた。また、後者の記事に登場する生野コリアタウンは、日韓交流や、韓国と北朝鮮の融和への期待といったポジティブな語と結びつけられていた。このように、政治情勢とスポーツイベントに関する記事は、国際的なニュース（イベント）が起きるなかで在日コリアンのコメントが求められるという構成において共通している。半ばパターン化されたともいえる記事構成のなかで、生野コリアタウンで生活し、また商店を営む在日コリアンの「考え」や「思い」が記事化されている。

本稿で明らかにした新聞紙上での取り上げられ方が、エスニックタウンとしての生野コリアタウンにとってどのような意味があるのかについては、これから詳しく検討していく必要がある。本稿で得られた知見をふまえつつ、さらに今後は質的な分析も交えながら、生野コリアタウンならびにエスニックタウンのイメージがどのように形成されているのか考察していきたい。

### 【注】

注1 大阪市生野区の旧猪飼野地域に朝鮮半島（とりわけ済州島）出身者が集住するようになった歴

史的経緯については、金（1985）、杉原・玉井編（2008）などを参照のこと。

注2 なお、3商店街は2022年1月より、「一般社団法人 大阪コリアタウン」を設立している。

注3 ただし、商店街では、1993年に道路のカラー舗装や街路灯の設置とともに、「KOREA ROAD」「KOREA TOWN」という名がつけられた2つのゲート（楼門）を設置するなど、コリアタウンとしての商店街活性化事業やまちづくりが展開されている（高2011：339<sup>5)</sup>）。

注4 KH coderにおいて、Jaccard係数を用いてクラスターごとの関連語を調べる方法については、後藤（2021：38-39<sup>6)</sup>）を参照した。

#### 【引用文献】

- 1) 谷富夫編『民族関係における結合と分離——社会的メカニズムを解明する』ミネルヴァ書房, 2002
- 2) 二階堂裕子『民族関係と地域福祉の都市社会学』世界思想社, 2007
- 3) 八木寛之・谷富夫「生野コリアタウンは『韓流ブーム』にのって——阪神圏商店街実態調査から」『コリアンコミュニティ研究』5号, 65-82頁, 2014
- 4) 矢野淳士・湯山篤・全泓奎「生野コリアタウン活性化に向けた実態調査報告——コリアタウン訪問者の商店街利用とニーズに関する調査から」『都市と社会』4号, 88-111頁, 2020
- 5) 高賛侑「コリアンタウン猪飼野 朝鮮市場からコリアタウンへ」猪飼野の歴史と文化を考える会編, 『ニッポン猪飼野ものがたり』批評社, 332-342頁, 2011
- 6) 後藤和智『Text Mining Maniax——フリーソフトで始める日本語計量テキスト分析 [増補版]』, 2021

#### 【参考文献】

- 金賛汀『異邦人は君ヶ代丸に乗って——朝鮮人街猪飼野の形成史』岩波新書, 1985  
杉原薫・玉井金吾編『<増補版>大正・大阪・スラム』新評論, 2008

#### 【付記】

本研究はJSPS科学研究費助成事業19K13930の研究成果の一部である。